

## 平成23年度事業計画書(案)

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

### I. 公益事業

#### 1. 学術講演会の開催(定款第4条第1号)

第107回日本精神神経学会総会として、三國雅彦会長のもとに、平成23年5月19日、20日、21日の3日間、ホテルグランドパシフィック LE DAIBA(東京都港区台場2-6-1)、ホテル日航東京(港区台場1-9-1)において、下記の学術講演会を開催する。

記

基本テーマ:「山の向こうに山有り、山また山 精神科における一層の専門性の追求」

#### I. 会長講演

三國雅彦:精神疾患の病態解明と客観的補助診断法

#### II. 特別講演

1. 臺 弘:精神科医の仕事と私の人生

2. Herbert Y Meltzer: The Translational Process of Clinical and Basic Research in Psychosis and Antipsychotic Drug Discovery and Development

3. Juhn A Wada: Power of Music in Art and Science of Medicine

#### III. シンポジウム

1. (仮題)両学会の現況と今後の展望(6題)

2. 双極性障害の治療を考える:エビデンスレビュー(8題)

3. 認知症、これからの診断、治療-新たな抗アルツハイマー病薬の出現をへて(8題)

4. 向精神薬の過量服薬、自殺企図を巡る諸課題(6題)

5. 連携する精神医療の構築をめざして-総合病院精神科が結ぶネットワーク(8題)

6. International Symposium 1 Proposal of Cross Cultural Clinical Study(10題)

7. 多職種から心理職に期待するもの(8題)

8. 検診における過大なストレスおよびうつ病の早期発見と今後の課題(8題)

9. 抗精神病薬の多剤大量投与はどうか認識されているか(7題)

10. 食生活への介入で精神疾患を予防できるか?(9題)

11. 電気けいれん療法(ECT)におけるインフォームド・コンセント(I.C)の再検討(8題)

12. (仮題)両国における精神医療の現状と今後の展望(4題)

13. 精神疾患の病態研究最前線(8題)

14. 精神医学における発達障害再考:児童期から成人期へのさまざまな発達軌跡(9題)

15. 医療従事者のメンタルヘルス~総合病院におけるメンタルヘルスケア~(7題)

16. International Symposium 2 Case discussion of Taijinkyofu(10題)

17. 精神科専門医の養成を考える:指導現場の取組と課題-若い指導医の視点から-(9題)

18. 摂食障害患者の万引きをめぐって(9題)

19. 多職種協働症例検討会-退院促進事例を通して(10題)

20. 医療機関で求められる心理社会的治療-モデルプログラムの提案(8題)

21. うつ病と認知症の間(6題)

22. 成人アスペルガー症候群への対応と支援(7題)

23. 精神療法における認知・行動・情動(7題)

24. 急性精神病の診断と治療における精神科医の立場-カテゴリーとディメンジョンの視点から(7題)

25. 強迫スペクトラム障害の可能性と治療~DSM-5の動向と薬物療法を中心に~(8題)

26. ひきこもりの国際比較-欧米と日本(8題)

27. 「ホームレス」化する精神・知的障害者をどう支えるのか~世界と日本の実情~(8題)

28. ECTの有効な「方法」を問う (8題)
  29. 気分障害の復職支援における精神科医の役割 ～リワークプログラムの上手な利用のために～ (8題)
  30. 解離性障害の臨床－診断と治療、そして対応－ (8題)
  31. 大人において広汎性発達障害をどう診断するか (8題)
  32. 双極スペクトラムを巡って (7題)
  33. 地域におけるアウトリーチ活動の実践－その現状と課題－ (8題)
  34. 統合失調症薬物療法を増強するために－臨床現場で使えるBBに則った実践的方法論－ (6題)
  35. 性同一性障害を取り巻く諸問題 (9題)
  36. 疾病構造の多様化とダイケアの専門性 (7題)
  37. 教育における精神保健ネットワークの構築を目指して (9題)
  38. かえる・かわる－精神保健医療の発展のために (8題)
  39. うつ病診療における治療脱落を考える (7題)
  40. 睡眠医学と精神医療のリンケージによる効果的な治療プログラムの提案 (8題)
  41. 当事者に届く生物学的精神医学研究：バイオマーカーを用いた精神疾患の客観的補助診断法の開発 (10題)
  42. 今日の新たな病気と精神医学：disease-mongeringを超えて (7題)
  43. 自殺対策と精神保健 (8題)
  44. 子どもから成人へ 発達障害の予後、治療効果予測への取り組み (7題)
  45. 非自発的入院制度をめぐって－医療保護入院を中心に－ (7題)
- IV. 先達に聞く
1. 小阪憲司：レビー小体型認知症
  2. GE Berrios：うつ病の亜型の歴史的変遷
  3. 原田正純：胎児性水俣病の発見とその後
- V. 教育講演
1. 齋藤利和：精神作用物質による精神及び行動の障害：アルコール依存症を中心に
  2. 齋藤万比古：児童思春期精神障害（摂食障害を含む）の疾患概念と病態－発達危機という文脈での理解－
  3. 溝部宏二：神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害（摂食障害を含む）の疾患の概念と病態の理解
  4. 中村 祐：アルツハイマー型認知症の診断と治療
  5. 岡崎祐士：統合失調症の疾患概念と病態の理解
  6. 狩野力八郎：人格障害の概念と病態の理解
  7. 大野 裕：気分（感情）障害について
  8. 堀口 淳：睡眠覚醒障害の理解と治療のポイント
  9. 兼本浩祐：精神科におけるてんかん診療入門
- VI. 精神医学・医療奨励賞受賞講演・フォリア賞受賞講演
- VII. 症例検討会
1. 精神障害を抱えた妊婦の周産期の対応
  2. 中安と最初期精神病状態、精神病理
  3. 「発達障害とパーソナリティー障害との合併」のケース
- VIII. 精神医学研修コース
1. もっとエビデンス、もっともっとエビデンス：EBM入門
  2. 知っておきたい器質性精神疾患の新知識 (5題)
  3. 心理教育・家族教室での実践 (3題)
  4. 精神医学研究の進め方－研究立案から論文執筆まで－ (5題)
  5. 多職種チーム医療における精神科医の役割とそのためのスキル・アップ
- IX. 市民公開講座
- X. 一般演題（口演・ポスターを含む）
- XI. 生涯教育研修会

2. 機関誌および学術図書の刊行（定款第4条第2号）

(1) 機関誌「和文誌－精神神経学雑誌」の第113巻第4号から第12号までおよび第114巻第1号から第3号までの12号分（1号平均160頁）を刊行する。

発行部数は、各15,500部。

(2) 機関誌「英文誌－Psychiatry and Clinical Neurosciences」の第65巻第3号から第7号までおよび第66巻第1号から第2号までの7号分（年間810頁）を刊行する。

発行部数は、各600部。

3. その他目的を達成するために必要な事業（定款第4条第3号）

(1) 各種委員会を設置し、各所管の事項を審議し、それにもとづいた活動を行なう。

(2) 国際組織など〔世界精神医学会（WPA）その他〕との連絡および国際学術交流に関する事業。

(3) 情報に関する事業

インターネット・ホームページでの情報提供を行う。

(4) 会員向けメールマガジンの送付を行う。

(5) 「精神医学・医療奨励賞」・「フォリア賞」の授賞を行う。

(6) 精神科専門医制度に関する事業を行う。

(7) その他

## II. 収益事業

1. 出版事業（定款第4条第2号の一部）

(1) 「日本精神神経学会百年史」の販売をする。

(2) 「WPAコンセンサス・ステートメント 第二世代抗精神病薬」の販売をする。

(3) 「精神神経学用語集」新訂版（2011）を出版・販売をする。

以上